

販売概要～ホームセンター・JAおきなわ等～



沖縄・各離島土壌改良事業及び個人農家販売
さとうきび・かぼちゃ畑での土壌改良及び肥料散布

堆肥販売(広域流通:JR貨物の活用)



コンテナにパレット(堆肥)を積み込み後、都城ORSに配送

鹿児島貨物ターミナルで貨物列車に積み替え、
広域輸送(鹿児島⇒新潟)



新潟貨物ターミナル到着後、積替倉庫に仮保管

手配したトラックに積み替え、ホームセンター各店舗に納品

- コメリ本社がある新潟(約80店舗)への販売ルート開拓
- JR貨物の課題: 都城ターミナルの荷物減少、空きコンテナ、貨物車両の空舎
⇒ 令和4年10月から新潟への堆肥流通を開始
(県内農場 ⇒ 都城ORS※ ⇒ 鹿児島 ⇒ 新潟)
※ ORS(オフレールステーション): トラック便 ⇔ 拠点駅を結ぶコンテナ駅

宮崎県における堆肥の広域流通の取組事例（HP掲載）

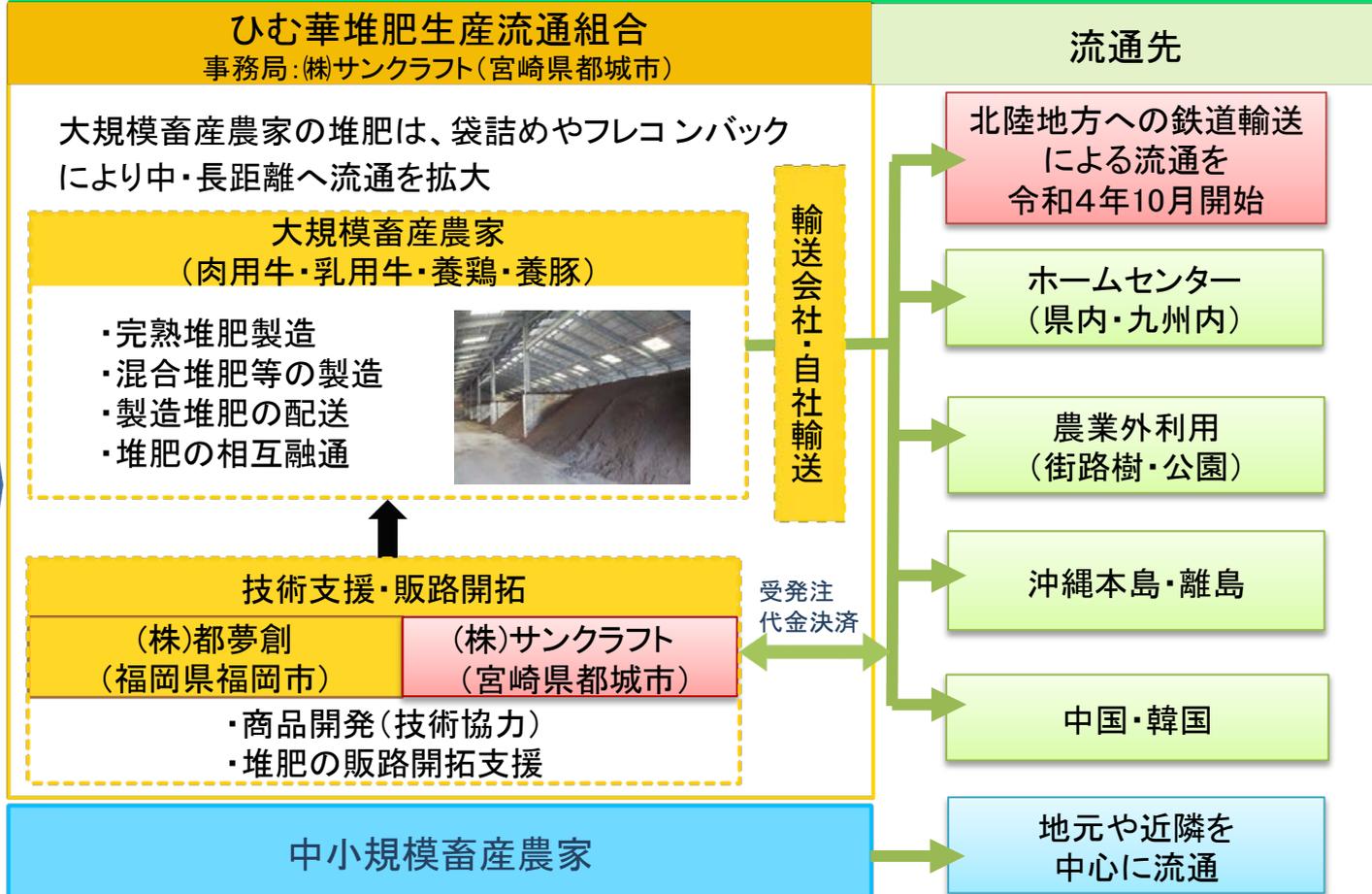
九州農政局宮崎県拠点

- 平成24年より、宮崎県と、宮崎県畜産協会、(株)サンクラフトが連携した取組として、畜産農家の家畜排せつ物のうち、大規模農家分は県外へ、中小規模農家分を地域で良質堆肥として循環するシステムを構築。
- 平成26年には大規模農家を中心とした、堆肥の生産から流通・販売まで一体的に取り組む「ひむ華堆肥生産流通組合」を設立。
- 令和4年度から、新たに北陸地方への鉄道輸送による堆肥の流通を開始。

現状と課題

- 堆肥の販売先の確保が難しく、堆肥舎内に在庫として滞留
- 宮崎県は堆肥が供給過多であり、無償譲渡が多い
- 家畜排せつ物の適正処理に向けた技術指導が必要
- 宮崎県内向けの堆肥販売先の棲み分けと広域流通の促進が急務
- 畜産農家が規模拡大するためには、家畜排せつ物の処理が最大の課題

肥料流通全体の調整



宮崎県における堆肥の広域流通の取組事例（ガイドブック掲載）





畜ふん堆肥の広域利用促進 ガイドブック

②堆肥生産・品質管理・出荷：みらいグローバルファーム(宮崎県都城市)

自社で和牛を県内でも最大規模となる 7,000 頭飼育し、発生したふん尿から堆肥を製造しています。平成 26 年に経営母体が変わり、今の体制になりました。それまでは、堆肥化から流通までがうまく回っておらず、質の悪い堆肥が堆肥倉に山積みになっている状況で、担当者の頭を悩ませていました。

そこで、ひむ華堆肥生産流通組合に加入し技術指導を受けながら堆肥の製造工程を一つ一つ見直し、改善を積み重ねていくことにしました。その結果、現状では 日産 150 トンの堆肥をさばっています。一次発酵は堆積式(下からの通気を行う仕様)、二次発酵は攪拌方式開放型(ロータリー式)で行っています。耕種農家の需要に合わせて、二次発酵までの段階で、中熟品として出荷しているものもあります。

近隣地域へのバラ出荷(4 トンダンプ輸送)を主力販売していますが、製品の一部は、自社で袋詰めまで行い、ひむ華堆肥生産流通組合の流通網によって大手ホームセンターや沖縄本島及び各離島の JA で販売しています。袋詰め用の堆肥は、二次発酵の後、さらに堆積し追熟(ローターとマニユスプレッドを使って定期的に攪拌、下からの通気無し)させてから、ふるい分けし、袋詰めを行っています。袋詰め堆肥製品の生産量は、毎日 600~800 袋ほどです。全体の堆肥出荷量からすれば一部ですが、大手ホームセンターで供給している堆肥と同等品であるということが、利用者である耕種農家の安心感につながっていて、ある種のブランド価値を提供してくれています。堆肥工程を担う従業員は 6 名(ローター運転員 1 名、堆肥輸送 4 名、袋詰め 1 名)です。



令和3年
公益社団法人



全国の畜産農家等の堆肥生産・流通に係る調査を取りまとめ、その取組内容の普及(新しい方向性を発想する一助)を目的とした事例調査が実施された。

G7 農相会合 宮崎アクション

温室効果ガス排出削減、生物多様性の損失を防止

既存の国内農業資源の持続的な活用

イノベーションや持続可能な農業の促進 など



令和5年4月22日(土曜日)-23日(日曜日)にかけて、宮崎県宮崎市においてG7宮崎農業大臣会合が開催され、G7農業大臣声明とともに、G7各国が取り組むべき行動を要約した「宮崎アクション」が採択されました。

堆肥を活用した飼料作物の栽培

業務提携する3社の知見やノウハウを用い、相互に連携・協力する。

- ①自治体、
畜産農家及び耕種農家との連携
- ②飼料栽培用の農地の確保
- ③飼料の栽培・販売
- ④堆肥の利活用



堆肥散布

飼料作物の収穫



双日株式会社

総合商社

令和5年4月に宮崎県と連携協定

本社：東京都



株式会社サンクラフト

堆肥総合コンサルティング

同：宮崎県都城市

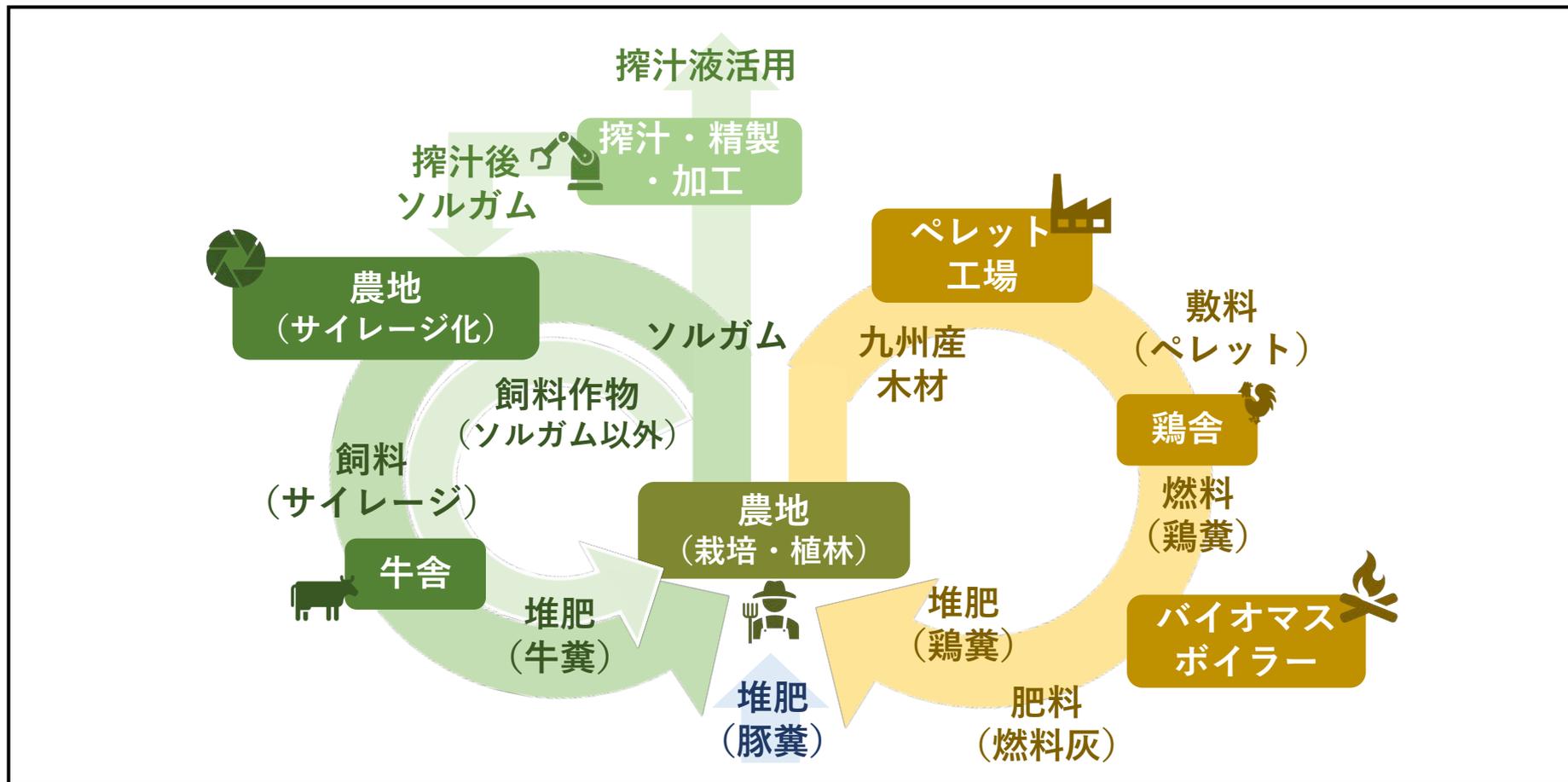


アグリパートナーズ株式会社

飼料生産販売・飼料生産請負

同：宮崎県川南町

地域資源循環事業（耕畜連携）の目指す姿



- 宮崎県を中心とした耕畜連携を推進、農業を取り巻く社会課題解決の一助となる
- 耕作放棄地や遊休地の解消、国産飼料自給率の向上、余剰堆肥の解消など

甘藷の裏作で飼料作(エンバク)



甘藷を収穫(9~10月)
⇒裏作でエンバクを栽培

播種(10月上旬~)
収穫・ラッピング(12月下旬~)

ロールサイレージ
(エンバク)

- 甘藷の裏作で飼料作(燕麦)約10haの試験栽培(刈取・収穫はコントラクター)
- 甘藷農家は畑を無償提供(裏作)、畑の線虫予防
- 裏作を活用した飼料作の拡大⇒堆肥の散布先拡大、飼料高騰対策

ソルガムの試験



草丈5m前後(播種後4ヶ月)
草径3~4cm



収量: 約5~10t/10a



給与試験予定

- 成長力の高い育種ソルガムの試験栽培(7ha)
- 生産したソルガムサイレージは、地域の畜産農家へ供給。
- 国産飼料自給率の向上および堆肥の利活用による資源循環を創出